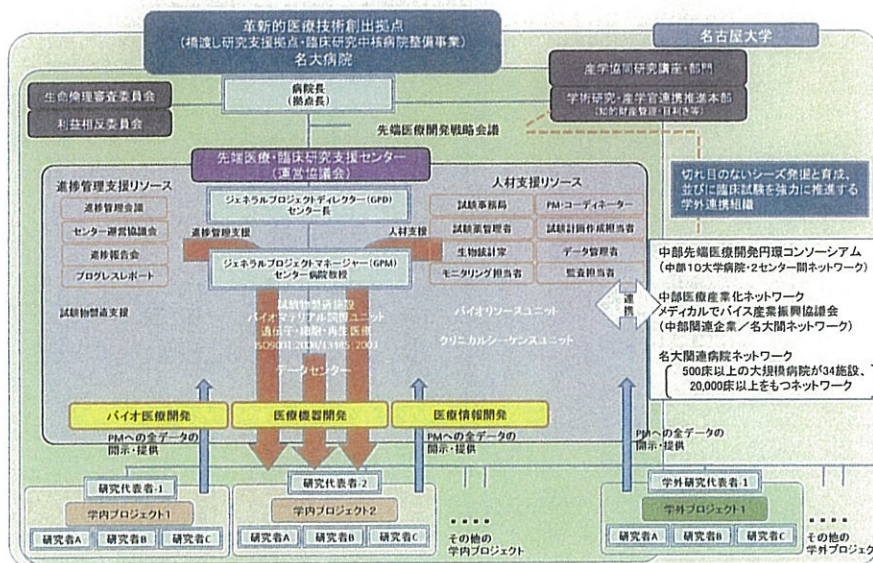


研究シーズの臨床への展開

名古屋大学医学部附属病院
 先端医療・臨床研究支援センター
 教授 水野 正明

名古屋大学医学部附属病院（以下、名大病院という）は、「診療・教育・研究を通して社会に貢献します」を理念とし、4つの基本方針を掲げている。そのひとつに「次代を担う新しい医療を開拓します」がある。私どもはこの理念と基本方針を担うことで法人としてのガバナンスを強固なものにし、先端医療開発を進めている。

名大病院は、2010年、シーズ発掘から保険診療に至るまでのプロセスを一貫通貫的に支援する組織として先端医療・臨床研究支援センターを立ち上げ、学内外の多職種・異業種連携を強化し、先端医療開発を強力に推し進めてきた。また、2012年には文部科学省の「橋渡し研究加速ネットワークプログラム」と厚生労働省の「臨床研究中核病院事業（現在の臨床研究品質確保体制整備事業）」にそれぞれ採択され、さらなる向上に努めてきた。2014年には支援センターのもつARO機能を9つのステージにまとめ、切れ目なく提供できる体制を構築した。この仕組みはシーズを持ち寄る研究者が、自らの研究が今、どのステージに位置しているのかを明確にし、課題や問題点の抽出並びにその対応に役立った。さらに学外ネットワークである中部先端医療開発円環コンソーシアムでは新たに金沢医科大学と富山大学が加わり、参加施設が12になった。このような学内外の基盤整備を進めつつ、中部地方における先端医療開発を支援し、名古屋・中部から世界へ向けて新しい医療を発信したいと考えている。本講演では、こうした名古屋大学の取り組みを紹介し、我が国における先端医療開発のあり方について皆さんとともに考えたい。



名大病院の臨床開発・評価推進体制

略歴

1992 年名古屋大学大学院医学研究科修了。社会保険中京病院、国立長寿医療研究センターを経て、1996 年名古屋大学医学部脳神経外科助手、1999 年同大学院医学系研究科遺伝子治療学助教授、2010 年同医学部附属病院脳卒中医療管理センター長・名古屋大学総長補佐、2012 年同医学部附属病院先端医療・臨床研究支援センター、同予防早期医療創成センター、同細胞生理学研究センター教授